

関東せいうん

北海道函館東高等学校関東青雲同窓会 会報17号



題字揮毫：「関東」＝山名昭二／「せいうん」＝中村隆俊

- 発行日：令和5年(2023年)3月31日
- 発行責任者：幹事長 土肥 健作
- 事務局：〒106-0045 東京都港区麻布十番1-7-8 宮下ビル402号
- 事務局携帯電話：090-4429-6060
- 事務局FAX：03-6804-5085
- 事務局メール：kantouseiun@gmail.com
- 関東青雲同窓会ウェブサイト：<https://www.kantouseiun.com>



母校歩き

東京-函館の航空機を予約する時、「なぜこんなに便数が少ないのか」といつも感じる。市町村魅力度ランキングで上位の常連にしては、もう少し何とかならないものか。そんな思いを抱き2022年の12月も帰省した。

実家の松陰町から五稜郭タワーの麓を目指し、公園を半周して東高の校門とグラウンドを横目に見ながら実家へと戻る。帰省期間中、最低一度はこんな散歩に出るが、丁度良い散歩コースと言えなくしているのがこの時期の雪道である。東京暮らしが長くなると、情けないほど雪道歩きが不慣れになる。ツルツル道路と必死に格闘しながら、野球グラウンド脇を通ると木立に囲まれた広いサッカーグラウンドが視界に入ってくるこの辺りのアプローチは、高校時代に焼

き付けられた印象のままだから嬉しい。木造の旧校舎で3年間を過ごした私には、お色直した現市函高の白い校舎が雪に反射してやけに眩しい。思えば閉校式にも参加せず、卒業後は現在の校舎に足を踏み入れたことがない。そう思った瞬間、青雲同窓会の小笠原会長に連絡し、市函高校内の撮影を依頼していただいた。

市内在住の同期3名も同行し、12月16日、校内撮影会を行った。最初に案内されたのは青雲記念館。新入生時代、ここで校歌を練習した。まさに、♪今、蘇る〜♪高校一年だ。第一体育館、職員室、学食、部室、廊下、階段、旧校舎世代には見覚えのないものばかりだが、我々撮影隊は口を揃えて「ここが昔のあそこだね」を連発すると同時にシャッターを切りまくっていた。私たちが



関東青雲同窓会 会長
横井 透 (東高30回生)



階段手摺りは滑り台



斜めになってない机...寝れるか?



鏡のような廊下に生徒の足音が聞こえる放課後の風景



市函生の活躍がここに



メニュー充実



廊下を歩く姿も颯爽と



SNS時代、もはや手紙も潜まず

卒業した当時、一学年はJ組までの10クラスだったが、今は生徒数も少なく、教室として使用していない部屋も少なくないようだ。また、廊下の掲示板に目を向けると、市函高生の活躍記事が多数掲示され、統合したとは言え我が母校とオーバーラップして思わず笑みがこぼれた。午後3時をまわり、現役生が続々と教室から出てくる。そのまま帰る、部活動に移る、何となく居残る、生徒の放課後は今も昔も変わらない。カメラを構える私たちに気軽に話しかけてくる彼ら。校内を案内してくれた方は「この学校の大先輩だよ」と我々を紹介する。ほんの僅かな時間の接点だが、同じ校舎で学んだ歴史の繰り返しを感じた。

同窓会の開催を中止せざるを得なかった3年間、コロナの渦中にある挨拶がどうしても多くなってしまうが、今回は母校のビフォー・アフターでまとめることができた。ひとえに、撮影に

ご協力いただいた市函高の花松校長殿、急な段取りを組んでいただいた黒島教頭殿をはじめ、市函高の皆様へ感謝し、誌面をお借りして御礼を申し上げます。

校名から「東」の文字が消え、市函高同窓会は「柳星」になった。しかし、「東・青雲」の決して消えない空気感は、今の校舎に息づいていた。この校舎、この部室、このグラウンド、そして、この空気感を味わった者すべてが、一緒に語り合える日が来ると信じる。

この撮影の丁度一週間前に、中村名誉会長が天国へと旅立った。誰よりも母校東高を愛し、母校同窓会や函館市に多大な尽力をした名誉会長に改めて感謝申し上げるとともに、校名は変わったが、母校はしっかりと変わらぬ存在であることをこれらの写真を通じて天国へお知らせしたいと思う。

ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



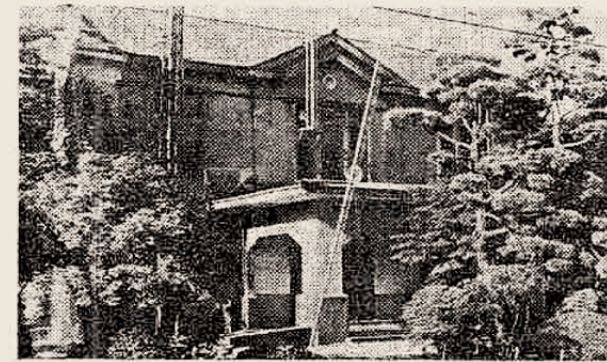
こきはなだ 深縹の空へ ～青雲魂とともに～

深縹(こきはなだ): 藍染の中で最も濃い藍色

ふるさとのわが母校

北国に咲く「青雲魂」

北海道内でも進学名門校として知られる函館東高等学校。在校生は四十五年の伝統をもつ「青雲魂」を受け継いで、勉学やスポーツに青春を燃焼させている。



*「青雲魂」を培ってきた校舎

北海道

函館東高等学校
旧函館市立中学校
旧函館市立高等学校

関東支部同窓会会長 中村 隆俊
岡村威儀初代校長は、いつも真面目で抱擁力のある人格者でした。生徒に対してはしつこく厳しい反面、常に愛情をもって接しておられました。
在学中に因しては、霞雲剛健の気風を生かした、いろいろな経験をさせられたことが、私自身、いまでも役立っています。例えば剣道部の厳し、寒げいなや、「登校の深呼吸」など、心が洗われたものです。生徒たちでグラウンドを整備して汗を流したのもよい思い出です。
Amen.O.Oのみなさんも、母校で得た経験を無駄にせず、素晴らしい社会生活を送って頂きたいと思えます。母校の、より一層の発展を心からお祈り致します。

函館高校のある函館市は道内でもっとも早く開港された地域で、明治初年までは開港場としてにぎわった。地元では、進学期の中学生に「青雲魂」のシャツが流行している。函館東高校の前身は、昭和十五年に開校した函館市立中学校。地元男子の中等教育機関を育てて欲しいという強い要望に応えての開校。創立時は、設備もない、教材も満足にない中で、教師も生徒も、手まわり状態にもかかわらず学校をこころよく受け入れた。初代の岡村威儀校長は、生徒たちを励ました。岡村校長を慕った。高い理想に向かって進む生徒に「青雲魂」と名づけたのは岡村校長。それ以来、校内では「青雲魂」という言葉が「青雲魂」とか「青雲魂」などとして使われ、いまでも、同校を語るときの代名詞にさえなっている。「函館東高の基礎を築いた岡村校長は人格者でその教えは、いまでもOBたちの心に深く残っています。OBは、みんな先生の意志を受け継いで頑張っています」と、関東支部同窓会の会長で、埼玉・戸田市の戸田中央総合病院理事長・中村隆俊氏(昭和二十年卒業)は岡村校長の思い出を話している。この冬のバラツキをきいて北国の冬、プルプル震えながら、新鮮な空気を胸いっぱい吸った。登校の深呼吸。柔道部や剣道部などの寒げいこは水点下十数度下がる中、はだして雪を踏みしめた。足の感覚がなくなったことも何回となくあった。長い冬が終わり、やっと待ちのぞんでいた春が訪れると、生徒たちは自発的にローラーをひいたり、スコップを使ってグラウンドの整備に汗を流した。夜まで続く 青雲祭 勉強やスポーツに元気に励む。霞雲剛健の気風を、生徒たちは「青雲魂」と呼んだ。そして、校名が変わっても、貫して生徒たちの言葉となった。受け継がれた。 同校は戦後の二十三年、学制改革で函館市立高等学校と改称。二十五年、高校再編成で現校名になり、同時に男子生徒待遇の男女共学が実現された。教育体制も徐々に整備され、道内で有名な進学校として着実に実力を残すようになった。 四十年(昭和)は、塾へ通う生徒は一人もいなかった。自主的に勉強する生徒がほとんどで、お互いに「この程度の学力では国立大学へ入れない」と競い合ったという。それでも、いまさら聞かれば東大や北大など国立大学へ合格する優秀な生徒が多かった。 毎年、生徒たちが勉強以外に「青雲魂」を表現するのは秋の「青雲祭」だ。クラブ活動の文芸部は腕によりをかけて作品を展示。スポーツ部は実技を披露する。屋外に響くのは、夜も延長される。各クラスで山車を一台ずつ作り、五穀郊周辺まで市内をねり歩く。 「北国の寒さに反して、温かみのある人が多い学校でしたね(昭和四十二年卒業の和田一雄氏・松田一里子さん)今年四十五年を迎える同校は、普通科と理数科にわかれ、それぞれ優秀な生徒が巣立っている。道内でも有数の名門校として、地元から大きな期待が寄せられている。

道部の厳し、寒げいなや、「登校の深呼吸」など、心が洗われたものです。生徒たちでグラウンドを整備して汗を流したのもよい思い出です。
Amen.O.Oのみなさんも、母校で得た経験を無駄にせず、素晴らしい社会生活を送って頂きたいと思えます。母校の、より一層の発展を心からお祈り致します。

同校は戦後の二十三年、学制改革で函館市立高等学校と改称。二十五年、高校再編成で現校名になり、同時に男子生徒待遇の男女共学が実現された。教育体制も徐々に整備され、道内で有名な進学校として着実に実力を残すようになった。 四十年(昭和)は、塾へ通う生徒は一人もいなかった。自主的に勉強する生徒がほとんどで、お互いに「この程度の学力では国立大学へ入れない」と競い合ったという。それでも、いまさら聞かれば東大や北大など国立大学へ合格する優秀な生徒が多かった。 毎年、生徒たちが勉強以外に「青雲魂」を表現するのは秋の「青雲祭」だ。クラブ活動の文芸部は腕によりをかけて作品を展示。スポーツ部は実技を披露する。屋外に響くのは、夜も延長される。各クラスで山車を一台ずつ作り、五穀郊周辺まで市内をねり歩く。 「北国の寒さに反して、温かみのある人が多い学校でしたね(昭和四十二年卒業の和田一雄氏・松田一里子さん)今年四十五年を迎える同校は、普通科と理数科にわかれ、それぞれ優秀な生徒が巣立っている。道内でも有数の名門校として、地元から大きな期待が寄せられている。



2022年12月9日、中村隆俊名誉会長が天国に召されました。訃報を聞いて、事務局に保管されている同窓会資料ファイルの中から、中村名誉会長のお写真を整理してみました。同窓会設立からのものがたくさん見つかり、どれも笑顔でとても楽しそうで、同窓会の集まりを心から楽しんでおられていたのがよく分かります。 上記の新聞切り抜きは、大変珍しい同窓会の広告(昭和60年3月21日出稿。奇しくも「名誉会長お別れの会」と同じ日です)。ふるさと函館から遠い関東の地に

出てきて、日々頑張っている同窓生に向けられた、勇気づけられるメッセージです。いま私たちが、卒業後このように集まる場があつてたくさんの絆が生まれているのも、中村名誉会長をはじめ多くの諸先輩方のご労苦によるものと心より感謝いたします。中村名誉会長の想いを胸にしっかりと納め、これからは「青雲魂」を引き継いでまいります。函館のあの青い空を思い浮かべながら、ご冥福をお祈りしたいと思います。 中村名誉会長、有難うございました! 役員会一同

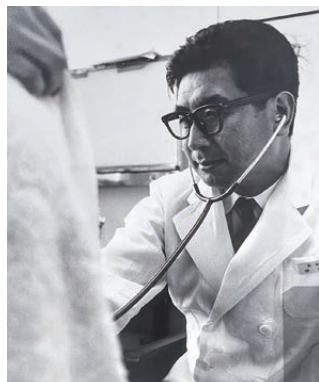
関東青雲同窓会 総会・懇親会の記録 ※参加人数は返信時のもので、来賓・招待を含みます。

開催日	会場	幹事期 / 代表者 / 総会参加者数	会長
第1回	昭和60年5月18日	茗溪会館 東高3回生(昭和28年卒) 厚谷襄児 167人	中村隆俊
第2回	昭和61年5月17日	茗溪会館 東高4回生(昭和29年卒) 島岡清美 158人	中村隆俊
第3回	昭和62年5月16日	麻布グリーン会館 東高5回生(昭和30年卒) 竹内 存 133人	中村隆俊
第4回	昭和63年5月28日	白雲閣 東高6回生(昭和31年卒) 西村正義 146人	中村隆俊
第5回	平成元年5月13日	麻布グリーン会館 東高7回生(昭和32年卒) 近正隆盛 158人	中村隆俊
第6回	平成2年5月19日	東京郵便貯金会館 東高8回生(昭和33年卒) 高野勝芳 146人	中村隆俊
第7回	平成3年6月1日	半蔵門会館 東高9回生(昭和34年卒) 菅原正樹 132人	中村隆俊
第8回	平成4年5月23日	日本工業倶楽部 東高10回生(昭和35年卒) 朝倉敏夫 169人	中村隆俊
第9回	平成5年5月22日	麻布グリーン会館 東高11回生(昭和36年卒) 新山春一 139人	中村隆俊
第10回	平成6年6月4日	赤坂プリンスホテル 東高12回生(昭和37年卒) 鈴木雅子 169人	中村隆俊
第11回	平成7年6月3日	赤坂プリンスホテル 東高13回生(昭和38年卒) 酒井俊行 165人	中村隆俊
第12回	平成8年6月1日	麻布グリーン会館 東高14回生(昭和39年卒) 松村俊昭 145人	中村隆俊
第13回	平成9年5月31日	東京グランドホテル 東高15回生(昭和40年卒) 中川和彦 143人	中村隆俊
第14回	平成10年5月30日	はとあいん及木坂 東高16回生(昭和41年卒) 厚谷延実 133人	中村隆俊
第15回	平成11年5月29日	京王プラザホテル 東高17回生(昭和42年卒) 田村良人 116人	中村隆俊
第16回	平成12年5月27日	ホテルラフォン青山 東高18回生(昭和43年卒) 北原恵一 124人	中村隆俊
第17回	平成13年5月26日	香港ガーデン 東高19回生(昭和44年卒) 廣川 豊 133人	中村隆俊
第18回	平成14年5月25日	香港ガーデン 東高20回生(昭和45年卒) 上嶋 勉 133人	中村隆俊

開催日	会場	幹事期 / 代表者 / 総会参加者数	会長
第19回	平成15年5月24日	新高輪プリンスホテル 東高21回生(昭和46年卒) 釣谷 勝 131人	中村隆俊
第20回	平成16年6月5日	京王プラザホテル 東高22回生(昭和47年卒) 亀谷 聡 123人	中村隆俊
第21回	平成17年5月28日	新高輪プリンスホテル 東高23回生(昭和48年卒) 高橋嘉宣 127人	朝倉敏夫
第22回	平成18年5月27日	東海大学校友会館 東高24回生(昭和49年卒) 竹内 清 120人	新山春一
第23回	平成19年5月26日	中野サンプラザ 東高25回生(昭和50年卒) 藤本智志 120人	新山春一
第24回	平成20年5月31日	九段会館 東高26回生(昭和51年卒) 奥山智美 124人	新山春一
第25回	平成21年5月30日	渋谷東武ホテル 東高27回生(昭和52年卒) 上口孝之 153人	新山春一
第26回	平成22年5月29日	弘済会館 東高28回生(昭和53年卒) 福田道義 120人	新山春一
第27回	平成23年5月28日	ホテルラングウッド 東高29回生(昭和54年卒) 村山雄一 101人	新山春一
第28回	平成24年5月26日	ロイヤルパークホテル 東高30回生(昭和55年卒) 横井 透 131人	新山春一
第29回	平成25年5月25日	學士会館 東高31回生(昭和56年卒) 柿本 大 147人	新山春一
第30回	平成26年5月31日	グランドアーク半蔵門 東高32回生(昭和57年卒) 松川幹治 167人	新山春一
第31回	平成27年5月23日	グランドアーク半蔵門 東高33回生(昭和58年卒) 上村 剛 125人	新山春一
第32回	平成28年5月28日	目黒雅叙園 東高34回生(昭和59年卒) 宮川博昌 162人	横井透
第33回	平成29年5月27日	大手町サンケイプラザ 東高35回生(昭和60年卒) 小松慎司 162人	横井透
第34回	平成30年5月26日	京王プラザホテル 東高36回生(昭和61年卒) 三宅 有 159人	横井透
第35回	令和元年5月25日	大手町サンケイプラザ 東高37回生(昭和62年卒) 野村雄次 147人	横井透
第36回	令和2年・第37回 令和3年・第38回 令和4年	コロナ禍により中止	

中村隆俊名誉会長 お別れの会

令和5年3月21日(火)
ホテルニューオータニ 鶴の間に於て



2023年3月21日(火) 故中村名誉会長「お別れの会」が、ホテルニューオータニ鶴の間にて執り行われました。函館東高校同窓会関係者も多数お招きをいただき、私たち関東青雲同窓会 役員一同も祭壇に手を合わせてまいりました。約2,000名もの参列者の中、函館市関係の方も多数ご列席されており、あらためて名誉会長のこれまでのご尽力とご功績の大きさに気づかされるとともに、ふるさと函館との絆を感じることができました。祭壇に飾られた名誉会長のお写真は、私たちを包み込むようなとても優しい眼をしておられました。また式典の隣の会場では、関東青雲同窓会の法被や総会・懇親会での集合写真も展示されており、諸先輩方とともに思い出話をしながら、時には笑いながら、名誉会長の在りし日のお姿を偲びました。心よりご冥福をお祈りいたします。

[略歴]

- 昭和2年 北海道瀬棚郡瀬棚町(現・久遠郡せたな町)にて出生
- 昭和20年 函館市立中学校(のちの市高・東高、現市函高)卒業
- 昭和25年 北海道大学医学部 卒業
- 昭和26年 東京医科大学内科 入局
- 昭和31年 板橋中央医院(現・板橋中央総合病院) 副院長 就任
- 昭和37年 戸田中央病院(現・戸田中央総合病院) 開設 院長 就任
- 昭和40年 戸田中央総合病院 理事長 就任
- 昭和52年 医療法人社団米寿会附属中央高等看護学校 校長 就任
(現・戸田中央看護専門学校)
- 昭和63年 戸田中央医科グループ 会長 就任
(現・戸田中央メディカルケアグループ)
- 令和4年 戸田中央メディカルケアグループ 名誉会長 就任

[荣誉]

- 平成4年 交通荣誉章緑十字金章 受章
- 平成12年 勲四等旭日小綬章 受章
- 平成28年 戸田市名誉市民 第1号受章
- 平成29年 渋沢栄一賞 受章、紺綬褒章 受章
- 平成31年 初のせたな町名誉町民章 受章



皆さまに「愛し愛される」グループとして
これからも医療・介護・保険・福祉を通じた
地域への更なる貢献に務めてまいります。

埼玉戸田エリア

- 戸田中央総合病院
- 戸田中央産院
- 戸田中央リハビリテーション病院
- 戸田中央腎クリニック
- 戸田中央リハクリニック
- 戸田中央 総合健康管理センター
- グリーンビレッジ安行
- グリーンビレッジ蕨
- 特別養護老人ホーム とだ優和の杜
- 戸田中央看護専門学校
- 戸田中央臨床検査研究所

東京エリア

- 西東京中央総合病院
- 佐々総合病院
- 一橋病院
- 八王子山王病院
- 小平中央リハビリテーション病院
- 田園調布中央病院
- 奥沢病院
- 松井病院
- 世田谷神経内科病院
- carna 五反田
- 時正会透析クリニック

- 戸塚共立おとキッズクリニック
- 戸塚共立ステーションクリニック
- 戸塚共立あさひクリニック
- ヒューマンライフケア横浜
- ONE FOR ALL 横浜
- 横浜未来看護専門学校
- 牧野記念病院
- 牧野リハビリテーション病院
- 牧野ケアセンター
- よこすか浦賀病院
- 熱海所記念病院

埼玉西エリア

- 新座志木中央総合病院
- TMG あさか医療センター
- TMG サテライトクリニック朝霞台
- TMG 宗岡中央病院
- 新座病院
- 東所沢病院
- 狭山神経内科病院
- グリーンビレッジ朝霞台

神奈川・静岡エリア

- 戸塚共立第1病院
- 戸塚共立第2病院
- 戸塚共立リハビリテーション病院
- 戸塚共立第1病院附属 さくらクリニック
- 戸塚共立第1病院附属 サクラス乳腺クリニック
- 戸塚共立メディカルサテライト 健診センター

千葉エリア

- 北総白井病院
- 船橋ケアセンター
- 茂原中央病院



戸田中央メディカルケアグループ 故・中村隆俊

〒335-0023 埼玉県戸田市本町1-22-3
TEL 048 (442) 1111 (代)
FAX 048 (442) 1115

(市中2回生 / 関東青雲同窓会 名誉会長 / 北海道道南会 顧問 / はこだて観光大使)



Toda Medicalcare Group



昨年12月9日、95歳で永眠いたしました。
長年のご厚誼に、心より深謝申し上げます。

青雲同窓会本部の近況報告

青雲同窓会
会長 小笠原 正吾
(東高37回生)



新型コロナウイルス感染症により、影響を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、平素は青雲同窓会本部活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響で青雲同窓会(函館)は令和元年開催を最後に3年間中止としていましたが、今年は4年振りの開催の予定をしています。

ただ、今までと同じやり方はできませんので「Withコロナ」での新しい

運営の仕方を検討しております。

また、幹事年においては令和元年時、43回生が幹事をしました。今年は順番通り44回生に幹事を仕切っていただき、久しぶりの同窓会の開催を楽しみにしております。

そして市立函館高等学校(通称:イチハコ)との連携です。今までのように生徒による会場でのパフォーマンスは難しいと思いますが、校長先生と相談させていただきできる範囲での参加協力をお願いして参ります。また、会

としまして会則にもありますように『イチハコへの支援』の観点から同窓生として何かお役に立てないか考えていきたいと思います。

これからも同窓生の皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い致します。最後になりますが、昨年12月に逝去されました関東青雲同窓会 中村名誉会長様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、同窓会のご発展と皆様のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

「青森ねぶた」に思う事

青雲同窓会 札幌支部
支部長 斎藤 晋吾
(東高22回生)



私は子供たちが小学生のころに連続6年、その後2年置いて、単身赴任での2年を合わせて8年間を青森で過ごしました。青森には楽しい思い出、怖い思い出も沢山あるのですが、楽しい思い出の一番は青森ねぶた祭りです。

今回テレビの「百カメ」でねぶた師のねぶた作成の様子を観たことで、1年をかけて準備に取り組む津軽人のねぶたに対する思いや心意気を思い出しました。

ねぶたは有名なお祭りですが実は函館にいた時はほとんど興味が無かったと思います。青森では最初の1年は見るだけでしたがその後は毎年跳人(はねと)として参加し、参加するお祭りの楽しさを心から感じました。

8月は東北各地と同じように青森はお祭りだらけになります。八戸の「三社大祭」弘前の「ねぶた」など各都市で沢山のお祭りが行われます。青森ねぶたは他地区のお祭りと同じようにコロナで開催できなかった年がありましたので、皆本当にお祭りを楽しみにしているという事がテレビからも強く感じました。

青森ねぶたの楽しさの原点は誰でも参加が出来る事です。衣装の浴衣や花笠を準備すれば誰でも参加できます。「ががしこ」と言う空き缶を平らにしたような盃を腰からぶら下げて路上のあちこちに設置している酒樽のお酒を浴びながら、笛と太鼓のリズムに合わせて跳ねまわります。浴道で

見るねぶたの迫力も素晴らしいのですが、やはり参加する楽しさは格別です。あまりの楽しさに跳人の何人かはアキレス腱を切って病院送りになります。祭りの運行が終わると町中の居酒屋が跳人の衣装を着た人たちが埋まります。今年は青森に行く機会がありそうなので、祭りでアキレス腱を切ったことのある私ですが、またねぶたに参加出来ればと思います。

3年間のコロナは色々な人間関係を壊しました。でも青森ねぶたは立派に復活しました。やはり伝統ある行事は簡単には壊れないものだと思います。

わが青雲同窓会も3年間のコロナ禍を乗り越え各支部で必ず復活すると思っています。

コロナ自粛の1年

東海青雲同窓会
会長 板倉 恵美
(東高16回生)



春になりました、皆さんお元気ですか。3年にわたるコロナ禍も解除になりつつあります。いよいよ活動を開始する時期が来ましたね。3年もの間会えなかった同窓会の皆さんにまたお会い出来ます。この3年間の皆さんがどのように過ごしておられたのかお聞きするのがとても楽しみです。

今年の冬は各地で雪の知らせが沢

山ありました。函館もまた大雪で大変だったと聞きました。団塊の世代の私からすると大雪も雪かきも今となつては楽しい思い出に感じられます。雪のない函館なんて考えられませんよね。滅多に雪など積もることのない地域に住んでいるお気楽な同窓生の感想ですが・・・雪が懐かしいです。

各地域からの総会の知らせが聞こ

えてくるこの頃です、鳴かず飛ばずの東海同窓会もいよいよ活動を開始します。東海の同窓会に来て良かったと思うようなプランを考えますね。10月には皆さんお誘い合せのうえ来て下さることを期待しています。

最後になりましたが、青雲同窓会への多大なご支援を頂いた中村名誉会長のご冥福をお祈り申し上げます。

関西青雲同窓会は 高校時代に連れ戻してくれる場所

関西青雲同窓会
安田 由美
(東高28回生)



たしか高2のときの、国語の先生のお言葉だったと記憶しています。

「君たちは将来社会にでたら“なんて幸せな高校生活を送ったんだ!”と幾度となく思い返すことだろう」と仰いました。

何気なく受け止めていたその言葉の意味は、社会人になり、中年になり、還暦を過ぎても尚、しみじみと感じているところです。

東高在学中は、バトン部に所属していました。

中2の夏に、先輩たちの行灯行列に出くわし、応援団とともに先頭を率いる東高バトン部に一目ぼれ!進路指導の先生に「無理だな」と言われ、おかげでその後必死に勉強し、無事に合格することができました。自分の人生であんなに机に向かったのは、後にも先にもこの時だけです(笑)。それから

の3年間は本当に、クラブ活動中心の、楽しいだけの毎日でした。

そんな青春の時間を共にした同期や、あの空間を知っている先輩や後輩方と共に、今こうして同窓会活動ができていたとは、何とも夢のような気持ちです。

コロナ禍で見送っていましたが、ようやく少し再開され始めました。

関西青雲同窓会の活動は、年一回の総会と懇親会です。そこでは恒例のクイズ・プログラムや校歌斉唱など、いつもの顔ぶれでいつもの進行、それが毎年心をホッとさせてくれます。

そしてほんの一瞬、何十年も前の高校生気分に戻れるのも、この会ならではの雰囲気のおかげです。今後も幹事の一人として、微力ながら、会の活動を続けて行きたいと思っています。



森武さんのこと

顧問 朝倉 敏夫
(東高10回生)

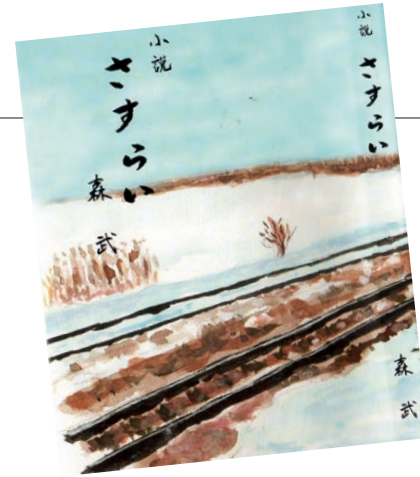
東高校が北高校との統合で市立函館高校になるちょっと前のことだから、2006年夏だったと思われる。私は東高校を訪ね、校長に面会を求めた。多分、青雲同窓会に関連することが用件だったのだろう。その時の校長が、森武さんだった。

東高校長から引き続き市立函館高校の校長にもなった森さんは、旧北高校の教職員団がなかなか溶け込んでくれず、「青雲」という言葉がタブーに近い雰囲気になっていると、会う

度に嘆いていた。柳星祭や柳星同窓会という名称も、あくまでも一時的、つなぎ的なものつくり、とも。

森さんが肺がんと闘いで入院中もずっとメールの交換が続いていたが、病床で執筆して贈っていただいた半自伝的小説「さすらい」のあとがきに、「私たち夫婦は知り合って三日で結婚を約束し…市役所へ婚姻届けを提出したのは、九日目だった」とあったのには、驚いた。穏やかそうな印象の方だったのに、実は大変な

※書籍の画像は森武様のブログから転用いたしました。



情熱家だったのだ。

その森さんが亡くなったのは、2021年の暮れ、12月18日。奥さんからのメールには、「8年間病と戦ってきて、やっと眠りにつくことができました。本人もほっとしていることと思います」とあった。



部活一年生

顧問 新山 春一
(東高11回生)

昭和33年(1958年)4月、東高は入学式翌日からクラブ勧誘がありました。運動部と学芸クラブ合わせて30弱あると聞いていましたが、海外文通に興味があったので郵便友の会(略称:PFC)を選び入部しました。

その年の5月末に対外用の部員名簿を作成。表紙には函館市の全景を入れ、PFCに加入している全国の高校に、市の観光パンフレットなどとともに送付しました。現在1部残っているその名簿を見ると、部員は3年生8名、2年生12名、1年生は23名でした。

部室はなく、階段教室を使用して金曜日の放課後に集まっていた。

私は入部と同時に海外文通を希望して登録。そして5月末に自宅にエア・メールが届きました。米国ワイオミング州の16歳の高校生からでした。以降3年間、お互いの学校の様子や写真、観光パンフレット、クリスマスの交換プレゼントなど、毎日楽しみにしていました。

夏休みが終わると部活動は文化祭の準備に入ります。ほかの学芸クラブには負けないという先輩たちの意気込みを感じながら、海外からのクリスマスカードや海外文通の手紙、国内



外の観光パンフレット、切手等を用意。文化祭直前は夜の8~9時頃まで飾り付けをしていました。

翌年1月には、公立・私立11高が加入している函館郵便友の会の幹事校になり、活動の範囲が広がりました。

中村隆俊名誉会長

昭和60年から会長20年、その後顧問、名誉会長として物心両面にご支援をいただき感謝に堪えません。ありがとうございました。合掌

故郷函館と同窓生の絆



小田 利隆
(東高28回生)

卒業以来、部活(剣道部)かクラスが同じだった友人とたまに会っていた10数年が過ぎ、関東青雲同窓会幹事年の節目で集まりだした同窓生40名とは、今も深く濃い交流が続いている。

女優、漫画家、アナウンサー、作曲家、音楽家、医師、ディレクター、デザイナー、漁師、建築家、経営者等々会社員以外の個性の強いメンバーとの異業種交流が楽しい。集まると無料相談会が始まる。弁護士がいないのが困る、との声をよく聞く(笑)。

当初は、海外旅行に花見、キャンプ、スキー、釣り、ゴルフ、六本木と派手に遊んだが、還暦を過ぎたころから、大人の修学旅行(多田恒幹事)や劇団スーパーエキセントリックシア

ター公演観劇(杉野 なつ美所属)、忘年会・新年会で、年に数回集まる程度となってきた。

ただ、自分の趣味であるキャンプとバイクツーリングに仲間が付き合ってくれるのが嬉しい。仕事で札幌や地方へ行く際も、延泊しての同窓生との会話が楽しい。仕事をしていると、必ず出身は、「函館」、高校は、「東」。そして不思議なもので、どこでも東高卒業生に出逢う。初対面でも東高卒業生であるというだけで親近感が湧く。

定年退職し、再就職した子会社での役員定年を迎えるが、次のチャレンジに老体にむち打ち頑張ろうと思う今日この頃です。

皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。



あたり前から 特別に変わるまで



三宅 嘉子
(東高30回生)

多分、放課後だったであろうそれはお濠治いの新緑を抜けて右手にグラウンドを見ながら左側にひっそりと佇む灰色の建物だった。

私の中での東高校校舎の一番古い記憶だ。

確かあれは小学生の頃、自宅のある中道町から柏木町のピアノの先生の家へ徒歩で通っていた頃だった。その時の私にとって、高校生は立派な大人に見えていたし、その後自分

がそこに通学する事になるとは想像もしていなかった。

私が東高校を意識したのは五稜中学校2年生の時だった。2才年上の姉が東高校に入学したからだ。そして姉は吹奏楽部に入部し楽しそうに毎日を過ごしていた。そんな姉を見ているうちに自分も東高校へ行きたくなったのだ。

そして2年後無事合格し、部活も勿論吹奏楽部に入部した。

同時に五稜郭公園のお濠治いが通学路となり徒歩や自転車での楽しい(笑)東高校への通学が始まった。

中道町に住んでいた私には、五稜郭公園は小さい頃からいつも日常にあったし思い出をあげたらキリがないが、東高校生になり、そして吹奏楽部員になった事で更に身近な場所になった。それは例えば夏休み中の定期演奏会の為の練習の時。午前練と夜練の間の時間に皆で公園へ行き恒例のハンカチ落としや缶蹴り鬼、達磨

さんが転んだ等をして遊んだ...いや、レクリエーションをした。(笑)

他にもお濠のボートに乗ったりととにかく遊び場...いや懇親会の場所でもあった。

私は現在、神奈川県厚木市在住で時々函館に帰省するが、その度に思うのは空は青く澄み、それを映す海は太陽光に照らされてキラキラと輝いている事や、五稜郭公園の木々の青葉、秋の紅葉がとにかく心に沁みる事。

そして最近特に思うのは、あの頃、毎日の通学路だったのにあまりにもあたり前すぎて自然が織りなす美しさに気づいていなかった事だ。

今はSNSで函館の四季の様子がよくわかる。その美しさにいちいち感動する自分がいて、函館が故郷だと話すのだいたい人は羨ましがる現在の環境で私は、函館が大好きで函館出身である事を誇りに思っている。

函館は、離れて外側から観る事によって、私にとって特別な美しい街となった。これからもずっとポケットの中に入れて常に持ち歩き、時々ふと取り出して眺めては癒される。

そんな特別な存在になっている。



phot by JUN (東校30回生・函館在住)

五稜郭駅周辺のこと ～記憶の糸を辿って



西岡 由紀子
(旧姓：飯坂)
(東高33回生)

函館市電の五稜郭駅前線は1978年10月末で廃線になりました。当時私は13歳でした。それより幼い頃ですが、五稜郭駅前電停から1系統や4系統の電車に乗り、母の勤め先に何度か行って行ったのを覚えています。

私の家は桐花中学校の裏手にあり亀田小学校に通っていました。クラスメートの多くが五稜郭駅(以下、五駅)周辺に住んでいました。当時営業していたパチンコのモノコさんやその並びにあったサカキ眼鏡さん、今や5代目に続く餅・和菓子の東京堂さん等は同級生のご実家です。塾通い、友達と遊ぶ、十字屋までお使いなど、多くの時間を五駅周辺で過ごしました。

中学に進むと五駅とは別方向へのバス通学となり、高校進学以降は本町や松風町などの繁華街が主な行動エリアでした。上京してからの20年間は、帰省と言っても「空港」-「実家」-「友人と会う居酒屋」の3点移動です。五駅とはすっかり疎遠に



跨線橋から望む横津岳

なっていました。ところが12年ほど前から両親が交替に病を患い市立函館病院に入院しました。以来再び五駅周辺に足を運ぶようになりました。駅前通りの坂道を下り、五駅北側の跨線橋を渡ってその先にある函病へ向かう-この道を何度も往復しました。

線路を足元に、跨線橋から望む函館山や横津岳の景色は私のお気に入りです。いつからなのか跨線橋にはゴムマットが敷かれましたね。以前は冬の日には階段で滑ってとてもおっかない橋でした。



五稜郭駅



跨線橋

北海道新幹線開業以来、新幹線はやぶさをよく利用します。函館ライナーを五駅で下車し、五駅から実家まで歩きます。すっかり更地になった風景を見ると、私の思い出も消えていくようで寂しさを覚えます。でもまだ思い出せます。今回の寄稿にあたり「記憶の不思議」をまた経験しました。きっかけ一つで記憶が芽づる式に次々湧いてくる、アレです。そうすると800字では足りません。続きは同郷の皆さんとお会いした時にきっと。その時はお付き合いいただけましたら嬉しいです。

恩師への手紙

佐藤 克彦
(東高35回生)



拝啓 山本隆治先生、お元気でいらっしゃいますでしょうか。

私事では昨年長女が結婚して家を出ていき、現在は、同居している下の息子が社会人として成長していく姿を見守りながら平和に暮らしています。

先生には担任として、バレーボール部の顧問として大変お世話になり、早いもので40年もの歳月が流れてしまいました。

今日までの人生で山本先生と過ごした東高の3年間は、考えながら目標に向かって努力すること、自分自身の環境を変える勇気を教わった大変貴重な時間でした。

バレーボールは下手くそで素人同然だった私。上級生がいなくなっからの2年の冬合宿では、コートの中で懸命に声を出し、周囲を盛り上げて雰囲気づくりに徹しました。内向的でおとなしすぎる性格であった私としては、一世代のキャラ変でした。これがきっかけで、レギュラーポジションの役割を与えていただいたのではないかと記憶しています。一歩前に入るための、自分自身と環境を変える勇気の芽生えでした。

バレーボールはチームワーク。他者を思いやり支援する協調心と、チームの力を最大限に引き出すため自身の体力・気力を養う努力が大切なスポーツです。部活動を通じて教わったことは、50を過ぎた現在も仕事や自身の行動に大きな糧となり、良い影響を与えています。

素晴らしい諸先輩やチームメンバーに恵まれ、全国大会出場といった貴重な体験もさせていただきました。英語は赤点ばかりだった私が、外資系の会社で何十年も勤め上げてこれたのは、今では昭和のスポ根ドラマのようですが、先生のご指導の賜物と感謝しております。

どうかお体ご自愛いただき、これからも教え子の成長を見守っててください。 敬具



昭和58年度 全日本バレーボール高等学校男子選手権大会(静岡市)

恩師からの手紙

山本 隆治
(東高9回生)



バレーボールは勿論、部活動なるものには全く無縁の私でしたが、函館中部高校の教員になって初めてバレーボール部(男子)の監督になりました。バレーボール講習会なるものには殆ど全て参加し、日本バレーボール協会公認のコーチや審判の資格を取りました。昭和52年春高バレーで地区優勝、全道大会で決勝に進出し、UHBでテレビ放映。相手は勿論東海大学第四高校。函中は最も大きな選手で178cmと“ちびっ子軍団”でしたがよく頑張りました。

東高に赴任してからは随分苦労しました。私が東高在学の頃のままでのボロボロの体育館で、ネットを張るポールやポールを差し込む穴もなく、半コートも満足に使えない状態で(上に上がらないバスケットボールのボードが邪魔をして、片面はバスケットボール部との境界線がくい込んでいたのです。)冬以外は外でも練習しました。冬期間は午後5時完全下校の決まりがあって、旧函商体育館や近くの中学校、函教大などに出向いてのジプシー生活。雪のグラウンドを走ったり、海岸の砂浜を走ったりもしました。ただ、人間というのは恵まれぬ環境に置かれるといろいろと努力工夫をするもので、赴任して4年目には高体連地区大会で優勝。3年生主将半田啓一、センター森元聡(現札幌藻岩高校監督)、2年生エース対馬康志、オポジットエース関恵史、1年生エース友成克広、セッター堀大一、センター小林竜司などのメンバーでした。全道大会(岩見沢市)初出場、釧路工業高、札幌藻岩高、美唄工業高など古豪、名門チームを破ったのち、東海四高に敗れ準優勝でしたが、上位2チームが鹿児島での全国大会に出場することができました。

次の年も地区優勝して、妹背牛町で行われた全道大会に出場。釧路工業高や札幌第一高に勝って、又もや東海四高に敗れ、準優勝で静岡の全国大会に出場しました。この時のチームで、センターを守っていたのが佐藤克彦君です。彼は中学時代は合唱部で運動はしていませんでしたが、1年生の時から私がクラス担任をしており、身長も当時177cmと割りに大きかったのでバレー部に誘いました。よく努力をし、2年生の時レギュラーになってセンターに。上級生になった対馬と関(主将)のほか、セッター堀(次期主将)、エース友成、センター小林(彼もバレーは素人)等のなかで本当によく頑張りました。北海道大会決勝戦はNHKでテレビ放映され、克彦君の雄姿も映っていました。

彼は合唱部にただけに歌がうまく、よくタレントの近藤真彦の歌真似をするなど皆の人気者でした。今でも毎年賀状を頂いて近況など報告を受けています。随分昔の事なのに、つい昨日の事のように思い出します。懐かしいね、これからも頑張ってください!

フレーッ、フレーッ、カー、ツー、ヒー、コーッ!!

俺のワタシの ブガツ 〈吹奏楽部〉

部活動にスポットをあてる本コーナー。
第三弾は吹奏楽部です。
当時の思い出をQ&A方式で
語ってもらいました。

延原 昌樹
(東高1回生)
担当楽器：チューバ



亀谷 聡
(東高22回生)
担当楽器：テナーサクソ



朝倉 早知子
(旧姓：土橋)
(東高26回生)
担当楽器：パーカッション



松田 有希子
(旧姓：佐藤)
(東高39回生)
担当楽器：フルート



Q. 吹奏楽部入部の動機と 担当楽器決定の経緯は？

延原：昭和23年に学校制度が変更。函館では更に男女共学にするために25年に旧制度の函中・市中・高女・女子商業の4校をまとめて、東高・中部高・西高になりました。私は旧函中から東高に。新しく通う学校はどんなところかと校内を見てまわると、倉庫の中に使っていない楽器が。これで遊んでみようということで、仲間を集めてそれぞれ好きな楽器を取らせたら、余ったのがチューバで、チューバ担当になりました。

亀谷：兄が東高吹奏楽部(16期)で、その影響を受け大川中学校から吹奏楽部に。また、中学時代の仲の良い先輩からの誘いもあり東高吹奏楽部に入りました。中学校に東高吹奏楽部が練習に来て、その練習風景を見て「高校生ってすごいな〜、あんなふうになりたいな〜」と思ったものでした。

朝倉：中学時代クラシックギターや合唱をやっていたので高校でも音楽を続けたいと思いました。パーカッションになった理由はパート人数がゼロだったので必然的に。

松田：中学校で吹奏楽部に所属していたので、高校生になっても続けたいと思っていました。部員数が中学の部活より多く、活動内容も魅力的に感じたので入部。担当楽器は中学校でも吹いていたフルート。希望どおりのパートになれました。当時東高吹奏楽部のユニフォームは赤いブレザーに紺のネクタイ。私もそれを着て演奏したいと思いました。入部時の自己紹介で「赤いブレザーに憧れて入部しました」と話したところ、先輩方から喝采を受けました！

Q. 当時の活動の様子は？

延原：吹奏楽部を作ったけれど、管楽器の経験者はトロンボーンとフルートの2人だけ。私を含めその他は初めて楽器を手にした人ばかり。顧問も若い女性の先生で、音大出ながらピアノ専門で管楽器は全然知らないということで、名前だけお願いしました。当時発足したばかりの函館吹奏楽協会の指揮者に指導をお願いしていました。練習室は炊事実習室の裏にあった教室。毎日毎日、遅くまで音出しの練習をしていま

た。夏休み前までになんとかマーチ1曲だけは人前に出せるようになりました。

亀谷：廊下でのロングトーンの練習、パートごとの練習、青雲記念館での合奏練習などです。練習前には必ず、五稜郭公園を一周ランニングするというウォーミングアップが日課でした。廊下でのロングトーンは、先輩の前で長々と同じ音を伸ばすというもの。終いには口に力が入らず口の横から唾が漏れ出して廊下を濡らすという、ほぼ拷問(!?)に近いものでした。しかし「伝統」ということで続けられており、私も後輩の皆さんにやらせました。ごめんなさいね。当時は、床に「唾受け」を敷くなどという習慣がなく、楽器の中にたまった水分もそのまま廊下に。床が腐るのではないかなどとは全く考えていませんでした。ごめんなさい。

朝倉：普段の活動は朝練から始まって毎日放課後に。パーカッションはパートで練習というよりはほとんど個人練習だったので地味でした。たまに金管の先輩が突然シゴキにやってくるのが怖かった。

松田：吹奏楽コンクールへの出場と年に一度開催される定期演奏会が活動の柱。他に文化祭の行灯行列の先頭で演奏しながら市内を練り歩いたり、3年生を送る予餞会ではマーチング演奏。さらに入学式・卒業式・始業式・終業式・運動部の壮行会など、校歌を歌う場面では伴奏をしていました。コンクールは編成別に演奏者の数が決められていて、当時は最も大人数のA編成でも上限が50名。部員数が多い年は選抜メンバーで出場していました。残念ながら地区大会を突破できたことはありませんでしたが、12分間という決められた時間の中で良い演奏ができるよう、メンバー一丸となって練習していました。定期演奏会では座って演奏するだけではなく、簡単な振り付けをしたり、衣装を変えたり、ステージに飾り付けをしたり。お客様に耳だけではなく目でも楽しんでいただけるように工夫していました。

Q. 忘れられない思い出は？

延原：野球部が強かったので、全道大会が札幌で行われた時、応援のため吹奏楽部全員で札幌へ行きました。が、相手校に吹奏楽部が無いので音出し禁止に。何もし

ないで楽器を持ち帰ることになり残念でした。象の花子さんが戦後初めて日本に来た時、全国あちこちに派遣され、函館にもやってきました。市内を行進する時その先頭に吹奏楽団をつけることに。他に吹奏楽をやっている団体がいないため私たちがやることになり、初めて行進しながら演奏しました。

亀谷：3年生の時(1971年)、自由曲「バンドのための民話」で全道大会で優勝したこと。B編成という少人数編成ですが(今はない)一番の思い出です。当時の指



尊者「清水信勝先生」は柏木町電停近くの内科・小児科の開業医。中部高校のOBなのですが、私たちの4期ぐらい前から何かの縁で東高を教えることになったのです。札幌での全道大会の前日、札幌市内の高校の体育館を借りて最後の練習をしたのですが、なかなか調子が出ません。先生は「みんな緊張しすぎだね」と言い「明日はこれを飲みなさい」と精神安定剤をみんなに配りました。「薬」を飲んだおかげ(?)か、本番は先生曰く「狐がついたみたいだ」というぐらい

とっても良い演奏に。予想外の優勝という結果で大変嬉しかったものです。これってドーピングじゃないよね。

朝倉：新しく購入したシンバル。その神々しいまでの輝きに感動した同じパートの子が、毎日毎日大切にメタルポリッシュで丹念に磨いていたところ、一週間もしないうちにくすんで古ぼけた色に。後でメタルポリッシュがいけなかったと教えられ号泣していました(私は陰で爆笑でした)。何という曲だったか、コンクールか定演かも定かでは



ありませんが、ティンパニを連打した時マレットの先がポーンと飛んでホルンの先輩の頭に命中。私は頭の中が真っ白になったのを覚えています。演奏中にスneaスティックが鼻の穴に刺さって鼻血が出たことがありました(涙)

松田：行灯行列とコンクールの日程がぶつかってしまい、コンクールが終わった後すぐに行灯行列に向かったことがありました。みんな「この演奏が終わったら着替えて行灯行列に行かなくちゃ!」と気もそぞろ。コン

クールの結果は思わしくなかったのですが、一日に2つの演奏機会があったことは貴重で楽しい思い出です。夏休みと冬休みには2泊3日で合宿をしていたのですが、1日中練習したり、食事をみんなで作ったことも忘れられません。ただ、この合宿では毎日必ず2時間は勉強。「進学校に通っているんだから、勉強と部活をしっかりと両立させなくちゃ!」と現実に引き戻されたりしました(笑)。どの学年にも楽器の腕前がとっても良い部員がいて、日々刺激を受けながらの練習。先輩方からは組織運営の方法を学ぶことができ、社会人になってからも役立っています。

Q. 吹奏楽をやってよかったと思う時は？

延原：進学した千葉大学にオーケストラがあり、トランペットで入部。夏休みには千葉県内の小中学校で訪問演奏をしましたが、オーケストラを初めて見たという子供が多かったです。大学3年の時には東京都民交響楽団に入団。ここでもトランペットを吹きました。上野の東京文化会館創立時の音楽会では、ベートーヴェンの交響曲第9番を演奏。その際に作られた都民合唱団の入団テストに立ち会うことになり、合唱にも興味を持つようになりました。勤務先が藤沢に移って都民交響楽団に通うのが大変になったので、会社のメンバーでジャズバンドを結成。今のような娯楽がまだ少ない時代、労働組合中心でダンスパーティーが盛んに。藤沢周辺では私たちのジャズバンドが呼ばれて演奏していました。昭和48年に伊勢原に引越し、伊勢原吹奏楽団に入団。50歳になった頃で、トランペットの高い音を出しにくくなったためバリトンサクソに変更しました。吹奏楽団の方でも低音楽器が少なかったため、こちらでもバリトンサクソを吹くようになり現在に至っています。長い期間バンドに所属して楽器を吹いていることが、責任もあり、心も若くられる要因だと思います。

亀谷：それまでも音楽は大好きでしたが、吹奏楽部でいろんな楽曲を演奏することでより一層様々なジャンルの音楽を楽しむ様になったことです。還暦近くになってから、地元の吹奏楽団に入り、テナーサクソを再開しましたが、中学、高校での経験や学んだことが生きています。

朝倉：[現役の頃]やはり全員で一つの曲を練習する時に感じる一体感、連帯感。そして発表後に達成感が得られた時、やってよかったと思います。[卒業後]今でも続くOB同志の繋がりが嬉しいです。[その他]人に肩叩きをしてあげる時、左右の力加減が均等で、しかもリズムが正確...と褒められます。

松田：楽器が人脈を広げるツールになることです。進学や就職などに伴う引っ越しをした時でも、その地域の吹奏楽団やオーケストラに入ることによって、様々な方と知り合うことができます。今回こうしてアンケートをお受けすることになったのも、東高とは関係のない音楽団体が東高吹奏楽部出身の先輩とご一緒したことがきっかけです。このような縁は私の人生において財産となっています。

Q. 部員や同窓会会員にメッセージを!

延原：90歳を過ぎ、楽器が重く感じるようになりましたが、ジャズバンドと吹奏楽団、それぞれ週1回の練習日を楽しみに生活しています。

亀谷：音楽は人生や生活を豊かにしてくれるものだと思います。吹奏楽を通して、クラシック、ジャズ、ポップス、歌謡曲、民謡など豊かな音楽人生を送ってください。

朝倉：現役の頃は演奏が上手いとか下手とか非常にこだわってみんな真剣に努力したり研究したりしていました。向上心を持つということは本当に大切なことだし、それがあって今の自分達があるのだと思います。楽しかったことも辛かったことも共に過ごしてきた仲間だからこそ、高校時代から遠く年月を隔てた今でもたまに会っては懐かしく語り合える。吹奏楽部の活動を通じてたくさんの経験をし、いろいろな人と知り合え繋がって来れたことを本当に嬉しく思い、また心から感謝しています。

松田：吹奏楽部だった方はもちろん、そうではなかった方でも、ご家族や知人が楽器をなさっていて演奏会に足を運ぶこともあるかと思っています。私は現在も楽器を続けており、大小様々な演奏会に出演していますので、どこかで見かけましたらお声をかけていただければ嬉しいです!

函館 Uターン 紀行



函館にUターンしてから、もうすぐ2年が経つ。こっちに戻ってきて一番変わったのは、街に対する当事者意識だ。函館は暮らしていても、友達を案内していても「自分の街」と思えるけど、東京は20年住んでもそういう感覚にはなれなかった。東京が大きすぎたのか、自分が小さすぎたのか、理由は今でもよくわからない。

ひとつはっきりしているのは、今のほうが「自分の暮らしを自分の手で作っている」という実感があることだ。

都会に比べて選択肢が少ないため、函館では仕事にしる、遊びにしる、欲しいものは自分たちで作ることになる。そういう手応えが、自分と街の距離を近づけてくれているのかもしれない。

僕は18歳のときに函館を出た。故郷に不満があったわけではなく、都会の生活に憧れていたという若者らしいシンプルな理由だ。実際、東京での暮らしは文句なしに楽しかった。好きなアーティストのライブへ行ったり、サッカー日本代表の試合を観たり、世界的な巨匠の名画を鑑賞したりと、函館ではできなかった経験をたくさんした。

阿部 光平 (東高50回生)

■プロフィール

1981年、北海道函館市生まれ。大学卒業を機に、5大陸を巡る世界一周の旅に出発。帰国後、フリーライターとして旅行誌等で執筆活動を始める。現在は雑誌やウェブ媒体で、旅行、音楽、企業PRなど様々なジャンルの取材・記事作成を行っている。東京で子育てをするなかで移住を考えるようになり、仲間と共にローカルメディア『IN&OUT-ハコダテとヒト-』【<http://inandout-hakodate.com/>】を設立。2021年3月に函館へUターンをした。



取材で日本中を駆け回って各地に友達ができ、ライターの仕事も順調そのもの。東校の同級生と結婚し、子どもにも恵まれ、充実した日々を送っていた。それでも東京は自分の街にはならなかったし、いつまで経っても仮の居場所という感覚が抜けなかった。

振り返ってみると、僕らの時代には「やりたいこと」と「住みたい場所」を天秤にかけて進路を決める人が少なかつたように思う。自分の周りには「やりたいことをやるために函館を離れる」とか、「函館は好きだけど、やりたい仕事がない」という人がたくさんいた。

だけど、あれから20年が経ち、時代は確実に変わっている。北海道新幹線の開通で移動のハードルが下がり、インターネットを活用したリモートワークも広まっている。「今ならやりたいことも、住みたい場所も両方を手に入れられるのではないだろうか」。そう思ったのが、僕がUターンを決めた最大の理由だった。

実際にUターンをして、僕は今、函館でライターの仕事を続けている。ありがたいことに東京でお世話になった

クライアントさんとの仕事が続いており、函館でも少しずつ仕事が増えている状況だ。東京にいた頃は雑誌やWEBコンテンツを作る仕事メインだったが、今はそれらを継続しつつ、北海道新聞でエッセイを書かせてもらったり、FMいるかでラジオのレギュラー出演をさせてもらったり、NCVでテレビ番組のナビゲーターをさせてもらったり、地元企業のブランディングを担当させてもらったりと、帰ってきてからのほうが仕事の幅も広がった。

子どもたちの遊び方も、函館に来てからずいぶん変わったと思う。東京ではお金を払って楽しいことをするという消費的な遊びが多かったが、今は釣りができるようになったり、植物に詳しくなったり、去年より大きな雪だるまを作れるようになったりと、技術と経験が積み上がっていく遊びが増えた。東京でヘアメイクの仕事をしていた妻は、西部地区に自分の美容室をオープンさせ、お陰様で数ヶ月先まで予約が取れないほど盛況だ。あらゆる面において函館に帰ってきてよかったと思う。



東高34回生「大人の修学旅行 in 京都」

2022年10月8日(土)～10日(祝)の三連休に、34回生「大人の修学旅行 in 京都」を催行しました。
あれから40年、立派な大人(?)に成長した29名が各地から再び集まり、当時を回想しながら、京都を旅しました。

構想6年・準備半年、まずは関東在住のメンバーで「実行委員会」を立ち上げ、渉外係、会計係、募集連絡係等の役割分担を決め、オリジナルウェア(パーカー&ポロシャツ)も制作し、更には、当時、実際に配布された「旅のしおり」(右上写真参照)のリメイク版B6判40頁も用意する等、仕事もそっちのけで、並々ならぬ情熱で準備に臨みました。

DAY1 (初日)

各地から京都入りし、関東チームは錦小路近くの「雪梅花 菜根譚」で昼食。その後、札幌チームと東山「弦庵」にて茶道体験。夜は、函館チームも合流し、御所南「夷川燕楽」大広間を貸し切り、祇園東より舞妓「満彩尚」さんもお呼びして、大人の大会。



京都在住の山本静さん(中央)のお茶室にて



舞妓さんとの遊びで大盛り上がり

DAY2 (二日目)

大型バスを貸し切り、市内観光。嵐山にて記念撮影を行い、金閣寺へ。御所や二条城、平安神宮等も車窓観光。昼食は「円山公園 京料理志ぐれ」にて。その後、三年坂を散策し、清水寺へ。夜は、先斗町「みます屋 ITALIANO」にて途中参加者も含め全員集合、二次会は祇園「スナック 私の部屋」を貸し切り、昭和歌謡カラオケ大会。

2年次の見学旅行で(1982. 9.17=2年E組)



昭和57年度 見学旅行記念

40年の時空を超えて…



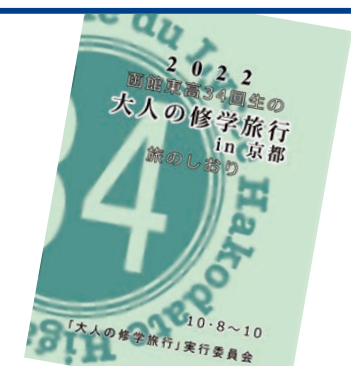
2022.10.9 嵐山で再び!



関東から参加
河邊 則宏
(東高34回生)

40年前の修学旅行は、当たり前に行う学校行事の一つであったが、今回の修学旅行は違う。受けではなく攻め。わずかな時間を慈むように触れ合い、手を叩いて笑いあい。そして呑み更けていく。

- 《札幌地区・6名》
 - 秋田谷美絵 上村 卓
 - 関戸 利加 西村 玲
 - 矢富小百合 山根 依子
 - 《函館地区・5名》
 - 小岩 雅江 千葉 真弓
 - 長崎 桂子 藤澤ゆかり
 - 棟方 裕紀
 - 《関東地区・15名》
 - 大坂 雅衛 河邊 則宏
 - 窪田志保子 小室 博之
 - 佐藤 則之 薄田 香
 - 清野さおり 辻 峰子
 - 土肥 健作 袴田 隆雄
 - 本間 丈夫 山田 麻子
 - 宮川 博昌 山田 宣裕
 - 吉澤 史也
 - 《関西地区・3名》
 - 佐藤 友美 佐藤臨太郎
 - 山本 静
- (計29名・順不同)



参加者(全員東高34回生)



サロンタイプの観光バス



MK観光バス、運転士・山田さんとバスガイド・小山さん

悠久の古都を巡る大人の旅



金閣寺



清水寺仁王門



法観寺五重塔

DAY3 (最終日)

函館チームは伊丹空港から、札幌チームは「養源院」等を散策してから関空より、空路にて帰宅。関東チームと関西チームは、宇治・平等院ルート(観光&スイーツ)、伏見ルート(酒蔵小路)に分かれ、夕方、京都駅に再び集合して新幹線にて帰途へ。



平等院鳳凰堂をバックに



札幌から参加

矢富 小百合
(東高34回生)

あの頃に戻れた3日間…あの頃は顔見知り程度でそんなに話したこともなかったのに、卒業以来39年ぶりの再会なのに、互いにこれまでの人生を讚えあうかのように話が弾む。これが青雲魂なのかな…歳をとることに抵抗して、あれこれと若見えに努力してた私(笑)でも皆さんと過ごした時間で、心の潤い、人生最高の美容液を手に入れました。34回生の仲間達、ありがとう。



函館から参加

小岩 雅江
(東高34回生)

同期会初参加で、ほとんどの参加者と卒業ぶりだったにもかかわらず、一瞬で学生時代にもどり、バカみたいな学生ノリで盛り上がりました。最終日に伊丹空港で551の豚まんを食べながら次々と送られてくる関東、札幌組の写真を羨ましく眺めて、大満足で終わることができました。また機会があれば参加したいです。

はこだて観光大使
北海道道南会相談役

沼崎 貞良
(市高2回生)

〒262-0025 千葉県千葉市花見川区花園4-6-11
Tel/Fax. 043-271-6411 Mobile. 090-7800-6833
E-mail. numasada@yahoo.co.jp

読売新聞東京本社

論説顧問 **朝倉 敏夫**
(東高10回生)

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
Tel. 03-3242-1111 Fax. 03-3245-0219

北海道函館東高等学校
青雲同窓会

役員・幹事一同

〈事務局〉
〒041-0811 北海道函館市富岡町2-56-18
藤井方 青雲同窓会事務局
Tel.090-7835-1258 Fax.050-3134-7793
<https://seiun-honbu.com>

青雲さっぽろ

「アカシアの集い」は、
今年で42年を迎えます。

2023年9月9日(土)に開催決定!
時間や会場など詳細は改めてご案内いたしますので
宜しくお願いいたします。

青雲同窓会 札幌支部 支部長
斎藤 晋吾 (東高22回生)
〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条5丁目1-11
青雲同窓会札幌支部
FAX.011-211-5606 acacia@seiunsapporo.com
www.seiunsapporo.com

はこだて観光大使
関東青雲同窓会 顧問

新山 春一
(東高11回生)

Tel/Fax. 03-3447-5399
携帯電話. 090-8817-9318

**青雲
東京十期の会**

(東高10回生)

株式会社 **オリエンタル物流**
(保管・梱包・メール便等 物流全般ご相談)

取締役 **佐藤 妙子**
(東高12回生)

<http://www.oriental-log.jp/>

〒340-0815 埼玉県八潮市八潮4-19-1
Tel. 048-999-2339(代) Fax. 048-999-2340

— 白色LEDランプ —
スギデン株式会社

代表取締役 **杉本 常三郎**
(東高12回生)

〒191-0032 東京都日野市三沢3丁目37番12号
Tel. 042-593-7186 Fax. 042-593-7001
E-mail: tunesan@m8.dion.ne.jp

函館東高等学校
東海青雲同窓会
会員一同



名古屋でまってるよ!!

事務局
〒475-0828 愛知県半田市瑞穂町3-3-10
会長 板倉 恵美
i.emi@wd6.so-net.ne.jp

函館東高等学校
関西青雲同窓会

会長 **大海 幸三**
(東高22回生)

〒602-8226 京都市上京区石薬師町 685-3
Tel/Fax. 075-441-1256 k.daikai0403@nifty.com

 **函館中央三菱自動車販売株式会社**
 **道南スズキ販売株式会社**

代表取締役社長 **小笠原 正吾**
東高37回生(昭和62年卒)
青雲同窓会 会長

〒040-0802 北海道函館市石川町15-1
TEL.0138-46-6070 FAX.0138-46-6071

きよし
高橋 喜宣
(東高23回生)

電話 044-722-6766
facebook「高橋喜宣」で検索
<https://www.facebook.com/kiyoshi.takahashi.587>

教科書の調査研究のことなら
公益財団法人 **教科書研究センター**

事務局長 **上口 孝之** (東高27回生)

〒135-0015 東京都江東区千石1丁目9-28
TEL.03-5606-4311(代) <https://www.textbook-rc.or.jp>

中村隆俊名誉会長のご逝去を悼み
衷心よりお悔やみ申し上げます

 **合同会社
吉沢富二郎商店**
代表社員 吉澤 史也 (東高34回生)

URL: <https://tom2-focus.net> 4438@tom2-focus.net E-Mail: 



税金、保険のご相談
お待ちしております。

千歳 芳充 税理士事務所

税理士 **千歳 芳充**

(東高24回生)

日本生命保険相互会社代理店

日本ファイナンシャルプランナー協会認定会員

北海道道南会、関西函館をおもう会 会員

〒178-0063 東京都練馬区東大泉6丁目8番28号
TEL:080-7933-8145 Fax:03-6733-8426
Mail:chitose.zeirishioffice@gmail.com

LE BOURGUIGNON

Yoshinaru KIKUCHI

菊地 美升

(東高35回生)

ル・ブルギニオン

〒106-0031 東京都港区西麻布3-3-1
Tel(03)5772-6244 http://le-bourguignon.jp/

能美防災グループ
システムサービス株式会社

取締役相談役

田中 由彦

(東高30回生)

取締役統括本部長

筆染 恭介

(東高39回生)

〒003-0809 札幌市白石区菊水9条3丁目2番31号
Tel.011-811-2223 Fax.011-824-3487

直行! トムハウス

新千歳空港から高速バスで50分
札幌ドームまでは徒歩20分

ひとり旅に、家族旅行に、便利なゲストハウスを。

Tom house Sapporo

二段ベッド 共用4台
一人利用 **3,300円**(税込)
二人利用 **5,500円**(税込)

大瀧 比呂子

(東高26回生)

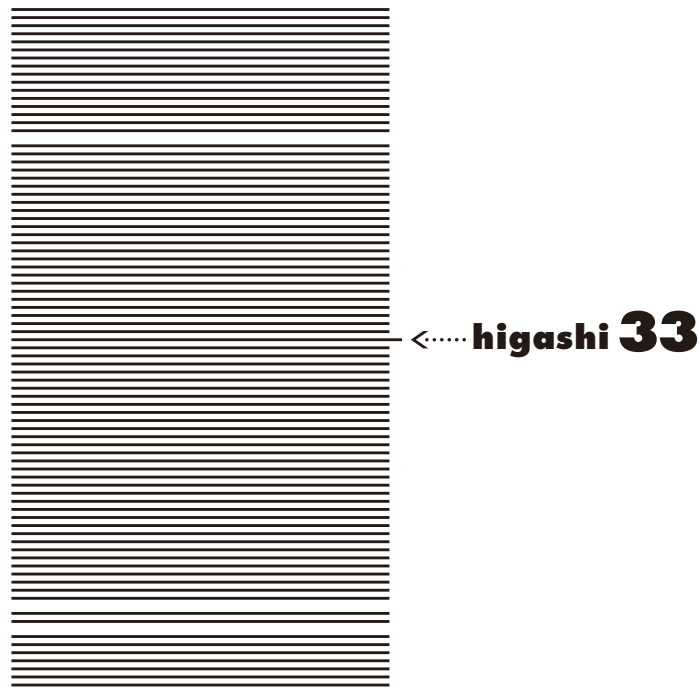
札幌市豊平区西岡3条5丁目1-11 Tel.090-6213-8692

tomhouse_sapporo@yahoo.co.jp

Facebook Tomhouse sapporo

告 集え35期! **KUWATA CUP**
年内ボーリング大会-2023 ☆☆☆
開催予定。
祝**KUWATA CUP**3位入賞

同期の偉業を祝して大会を企画致します。
皆さんでボーリングを楽しみましょう。
詳細は後日連絡!



我ら、高校4年生

友人のネコの治療費
100万円/月に驚き
慌ててペット保険
に加入。自分のがん
保険より高価で
5万円支払う。
辻(吉田) 峰子

好評だった大人の修学
旅行に味をしめて専門の
旅行会社を作る。
当時とのシンクロした集
合写真への拘りが凄いと
中高年から人気に!
新しい旅館も検討中!
3マス進む!
宮川 博昌

昨年、友人から紹介
してもらった肥料が
効果バツン!
不毛の大地に新芽が
芽生え、心にも春が
到来。その気持ちは
ブライレス!
佐藤 則之

冬休みで久しぶりに
函館へ帰省したところ、
寝る前の水抜を忘れた
為、水道管がしぼれ
破裂、修理代2万円を
出費する。
村中 満

捕まった UFO の中で
同窓会が始まる
ミラクル。
サイコロもう一回
振れる。
土肥 健作

娘の結婚式7日前同居の
姪がコロナ感染&出席
予定の母骨折で5マス
戻る。2日前父が搭乗
予定の飛行機が大雪で
欠航で更に3マス戻る。
結果、無事式が開かれ
元のマスに戻る(実話)。
薄田(本間) 香

五稜郭電停前から
市バス27番に乗ろうと
思ったら、ガチャ万が
うるさくて間違えて7番
に乗っちゃった。
山田 宜裕

全国旅行割使ったら宿
泊料金水増しされて、
普通に旅行した方が
お得だった。ショック。
損失分2万円支払う。
篠原(浦) 伸宏

4年ぶりに東方神起
LIVE ツアーが決定!
久しぶりの全国トシ活に
気分はすっかりJK♡
待ちきれなくて5マス
進む。
窪田(増川) 志保子

総会・懇親会の日時を
間違えて知らない人たちの
会合にうっかり参加。
しかし最後まで怪しまれず
にフルコースを完食した
ので、適当に1万円だけ
置いて逃げ帰る。
吉澤 史也

会計後にクーポンを
持っていた事を思い出
し、もの凄く損をした
気分になる。
¥60 だけだ。
本間 丈夫



ES CON
FIELD 開幕、大人の
修学旅行第二弾敢行。
業界のU氏の計らいでライブ後
にEXILEのミーグリ参加。
お土産は甘食、記念写真は
お値段以上、鴨川以上。
石塚(古館) 由美子

わやだべ!

2023 年版
人生ゲーム

永ちゃんの乗った
キャデラックをバイクで
先導し新国立競技場
をほぼ1周、
ギャラとして永ちゃんから
3万円もらう!
袴田 隆雄

Goal!!

御子息、御令嬢の結婚
ラッシュ。若者達の
幸せそうな姿に目を
細めつつ、慌てて便乗!
みんなにお祝いして
もらう♡(実話)
清野 さおり

吉田類さんと呑んでくれ
て二日酔いで仕事に
ならず。
1日休み。。。
河邊 則宏

十数年振りの競輪観
戦、音練習したことが
ある選手の車券を買うと
見事当たり10万円ゲッ
ト!その勢いで夜の街へ
行き20万円散財。
振り出しに戻る。
西村 真樹

函館マラソンで男子: 2時
間18分27秒の大会記
録を更新して優勝!と思
いきや、finish 手前で函館
高校の現役陸上部に抜か
れる。賞金100万円を
逃して脱力、、、1日休み。
小室 博之

「大人の青雲祭」を開催。
行燈行列で渋谷スク
ランブルを埋め尽くし、
東京三大祭りに昇格!
警視庁からお小言を
もらい3マス戻る。
佐藤 信吾

Start!

Pour une
amitié éternelle.

東高 34 回生 (昭和 59 年卒) 有志

京都芸術大学兼任講師
東高35回生
建築家/代表

田村秀規

PODA
一級建築士事務所

東京都渋谷区千駄ヶ谷
5-16-10-704 〒151-0051

住宅/店舗/オフィス/テナントビルの新築/改修設計

Email info@poda1.com ■Web https://www.poda1.com ■Phone 090 7417 1380

KM工房 空調・換気・衛生工事・図面作成

代表 **金 札 謙 治** (東高35回生)

かな ふだ
一級管工事施工管理技士
消防設備士(甲種1類)

〒413-0304 静岡県賀茂郡東伊豆町白田1074
TEL 0557-27-1235 CELL 090-3435-4047
E-mail khf03450@nifty.com

ゼロ ゼロ
(東京都台東区寿3-11-5 メゾンフィールズ202)

運命は存在住民意匠気心
展開は断行育英断行

YCC
YOKOI CREATIVE CONSULTING

関東青雲同窓会 会長
横井 透 東高30回生



MOVIE and DESIGN PRODUCTIONS
KAILAS INC.

東高30回生
関東青雲同窓会広報/HP担当

代表取締役
小原 ゆかり

有限会社カイルス tel.080-5448-0998 yukari.ohara@kailas.vc

関東青雲同窓会

幹事長 **土肥 健作**
(東高34回生)

募集! 1990年(平成2年)以降に東高を卒業、現在関東在住の方。

ご連絡はこちらへ >>

Eメール kantouseiun@gmail.com

ウェブサイトお問い合わせフォーム
https://www.kantouseiun.com/contact

電話 090-4429-6060

函館や札幌などからのご紹介もお待ちしています。 **関東青雲同窓会 事務局**

ウェブサイトやSNSもぜひお楽しみください。

これからは集まりも多くなりますね。どんどん発信していきたいと思いますので皆さまからの情報もお待ちしています。

<https://www.kantouseiun.com>

Facebook <https://m.facebook.com/kantou.seiun/>




関東青雲同窓会「会則」はウェブサイトでご確認いただけます。



Home | ニュース | 役員・幹事 | アーカイブ | 会報 | リンク | お問い合わせ

関東青雲同窓会
北海道函館東高等学校を卒業し、関東地区に在住する方を会員とした同窓会です。

世代を超えて笑顔が集う

ほんのひととき、昔に戻って笑顔になれるのが同窓会。ホームページで、そんな笑顔を味わってください。

役員便り 関東青雲同窓会員のブログです

大北海道展、行ってみたい
関西青雲同窓会総会に参加し、アツマシ、アツマシ
汐風と街散歩

事務局からのお知らせ

ホームページをリニューアルし、アツマシ、アツマシ
「青雲員つくり 第3号」発行！
関東青雲同窓会 青雲RR100周年大会

同窓会開催報告 関東青雲同窓会のイベントを紹介しています

関東青雲同窓会2020年新年会のご報告
関東青雲同窓会2019年新年会のご報告
第34回関東青雲同窓会総会・懇親会 開催のご報告

同期会開催報告 各期の同窓会を紹介しています

関東青雲同窓会役員
[2023年(令和5年)3月現在]

- 会長 横井 透 (東高30回生・昭和55年卒業)
- 副会長 北村 雅樹 (東高33回生・昭和58年卒業)
- 宮川 博昌 (東高34回生・昭和59年卒業)
- 幹事長 土肥 健作 (東高34回生・昭和59年卒業)
- 副幹事長 小原 ゆかり (東高30回生・昭和55年卒業)
- 霞 修治 (東高33回生・昭和58年卒業)
- 辻 峰子 (東高34回生・昭和59年卒業)
- 塩越 佳奈 (東高35回生・昭和60年卒業)
- 会計幹事 加茂 千恵子 (東高31回生・昭和56年卒業)
- 監査役 上村 剛 (東高33回生・昭和58年卒業)

年会費のご協力と新規会員登録のお願い

当同窓会は、皆様からご納付いただく年会費によって運営されています。年会費振り込み用紙【郵便払込取扱票】が同封されている方は、今年度(令和5年度)分の年会費が未納です。総会・懇親会に出席／欠席に関わらず、何卒、年会費のご納付をお願い申し上げます。(同封されていない方は、今年度分はご納付済みです。)また、同期のお知合いで未登録の方がいらっしゃいましたら、ぜひ会員登録のお勧めをお願いできれば幸いです。

年会費	1年ごと	: 2,000円
	5年分一括	: 8,000円
	20年分一括	: 30,000円

会費納入口座	口座名義	: 函館東高等学校関東青雲同窓会
	●郵便振替	: 00160-4-118019
	●ゆうちょ銀行	: 当座 〇一九店 0118019



同封の【郵便払込取扱票】を、振り込み側が手数料を負担する「青伝」から、受け取り側(同窓会)が負担する「赤伝」へ変更いたしました。また、ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は、口座からのお振替をご利用いただくと払込手数料がかかりません。どうぞよろしく願いいたします。

※【郵便払込取扱票】には必ず住所・氏名・〇〇回生・〇〇年卒をご記入ください。

重要

昨今、発送費が値上げになっていることから、運営費用に大きく影響が出ています。そのため長年にわたり年会費が未納の方には、総会・懇親会のご案内や会報などの発送を停止させていただきます。引き続き案内をご希望の方は、同封の払込み用紙にて年会費のご納付をお願い申し上げます。なお年会費納付状況は、本状の宛名ラベルに最終納入年度が記載されていますのでご確認ください。ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

同期会補助金のご利用になれます

同期会開催のお手伝いとして補助金をご提供。これまで補助金を利用して多くの期が同期会を開催しています。同期会を通じて同窓会会員を増やすことを目的として始まったこの制度、コロナ禍もあり、会員増にはなかなか結びついていないのが現状です。ご協力をお願い申し上げます。

- 補助金は、原則として10名以上の同期会開催に対して10,000円。
- 年度に一度のご利用で、次年度への持ち越しはできません。
- 開催報告をホームページ等で掲載します。原稿や写真を依頼する場合がありますので協力ください。
- 申請は、事前に事務局までご連絡ください。

会報「関東せいうん」発行時に、広告を出しませんか？

会報「関東せいうん」では、皆様からの広告を掲載しています。次号発行の際に掲載をご希望の方は、まずは下記事務局メールまでお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

事務局メール: kantouseiun@gmail.com

関東せいうん 編集後記



関東青雲同窓会 副幹事長
関東せいうん編集委員
霞 修治(東高33回生)

会報「関東せいうん 17号」が無事完成いたしました。寄稿および出稿にご協力いただきました皆さまには、心より感謝申し上げます。

故中村名誉会長の追悼記事では、関東青雲同窓会(当初は関東地区青雲同窓会)設立からの写真をほんの一部ですが掲載いたしました。記事でも述べましたが中村名誉会長は、載せられなかったものも含めどの写真も本当にうれしそう。私はその

笑顔にすっかり魅了されてしまいました。そのお姿からは、心から同窓会を愉しんでいらっしゃったことが強く伝わってきます。そしてそのお気持ちは最後まで少しも変わることはなかったのだと思います。

今年は4年ぶりに総会・懇親会を開催いたします。仲間と集まる喜びはきっと今まで以上。どうぞお誘い合わせのうえお越しくださいますよう、同窓会役員一同心よりお待ちしております。